



# 21春闘「第2回交渉」開催！

## コロナ禍の“変革”を加速するために

3月10日、2021春季生活闘争の申入れ 申1号「賃金引き上げの要求について」第2回団体交渉を開催した。第2回目の交渉では、会社側から現状認識について説明されるとともに業績と課題、賃金交渉に対する基本的スタンスが示された。

### 現状認識（概略）

会社は、実質GDP成長率、景気動向指数、景気ウォッチャー調査、足下の動向として内閣府の2月月例経済報告等の資料を提示したうえで、引き続き厳しい環境にあるが感染症対策に万全を期しながら、早期の業績回復に努めるとともに、お客さまのご利用と信頼の確保に努めていく必要があるとした。

### 会社側の基本的スタンス

- 当社を取り巻く経営環境は急激に変化している。感染症対策に万全を期しながら、早期の業績回復、変革2027の実現に向けた取り組みのレベルとスピードを上げ、サステイナブルに社会の発展に貢献する企業グループを目指していかなければならない。
- 社員一人一人が主人公となり、危機感を持ち、変革2027実現のために意欲高くチャレンジを続けることで、変化を先取りした価値サービスを創造することが不可欠である。
- 全社員が一丸となり、生産性向上にむけた抜本的構造改革に取り組むとともに、ポストコロナ社会を見据え変革のスピードアップを図らなければならない。
- 令和3年度の新賃金については中長期的動向を踏まえ極めて慎重に判断しなければならない。新賃金、そのほかの要求についても総合的に判断する必要がある。

### 組合側の主張

- 当社の今年度までの7年連続の賃金改定は大変ありがたく思う。
- 先行きが不透明の中ではあるが、社員のやる気、変革2027達成に向けたチャレンジ精神をしっかり評価し、定期昇給の実施を行なっていただきたい。
- ベースアップは将来的にも影響が大きく、世間動向や会社の現状を見据えた対応が必要であることから、難しい局面であることを認識した中で会社の考え方を確認した。
- 雇用については、先行き不透明感があり、雇用の不安があっては社員のやる気にも影響することから、グループを含めた完全雇用をお願いする。

**コロナ禍で奮闘する全社員のため最大限の報いを！**